

満鉄調査関係者に聞く

特別連載にあたって

日中関係史において南満洲鉄道株式会社(満鉄)が重要な意味をもっていることは改めていうまでもない。満鉄は中国東北地区(「満洲」)においてたんに鉄道経営だけでなく、全産業部門にわたって企業経営あるいは投資を行ない、また中国側政権との関係において日本政府の代行機能を果たし、情報収集をも併せ行なったのである。

満鉄が会社創設の当初から調査活動を重視したことはよく知られている。その調査活動は一時的に停滞したことはあったにせよ、満鉄は当初から慣行調査、兵要地誌調査、各種産業調査や、資源の開発利用のための自然科学研究、技術研究などを活発に行なった。昭和17(1942)年のいわゆる「満鉄調査部事件」による調査関係者の大量検挙と日中戦争の戦局の推移によって、その調査活動は衰退していくとはいえ、敗戦まで続けられたのである。

その調査研究は、満鉄が日本の中国に対する帝国主義的侵略、植民地経営を担っていたということと、そのような会社経営の枠内にあったという限界はあるにせよ、戦前の日本におけるアジア研究、中国研究の中心の一つであり、また到達点であったともいえよう。その成果には現在のアジア研究に正当に引き継がれるべきものも多いと考えられる。

その調査報告書は膨大な量にのぼっているが、配布先の限定されたドライタイプ印刷が多かったこと、また日本の敗戦後の中国現地の混乱と国内に所在した文献のGHQ(連合軍総司令部)による接収により、その利用は非常に困難であった。このためアジア経済研究所図書資料部では1979年に『旧植民地関係機関刊行物総合目録——南満洲鉄道株式会社編』を刊行して、国内とアメリカの主要機関における満鉄刊行物の所在を明らかにした。その後国立国会図書館がアメリカ合衆国議会図書館の所蔵するGHQ接収文献のうち国内に所在しない文献を中心とする満鉄の調査報告のマイクロフィルムによる収集を行なったため、現在では満鉄の刊行物は利用も容易となっている。また「総合調査」などの調査報告書、各種雑誌の復刻があり、研究文献も近年次第に増加してきている。

とはいえ、現在までのところ文献利用にかぎられるという傾向がなお強く、それぞれの調査研究における目的、背景、調査方法、調査結果、それらの問題点、また調査機構と調査主題の変遷などを明らかにする必要があると考えられるのである。そこでそれぞれの調査報告の背景にある諸事情を明らかにし、いわば文献解題としても利用しうることを目的に、本研究所図書資料部では、1982年に資料情報委員会に満鉄調査資料分科会を設け、満鉄が行なった各種の調査に当時直接携わられた方々からのヒアリングを行なった。

下記に示す一覧は2年間にわたって行なった満鉄調査資料分科会における報告である。満鉄の行なった調査活動の全てを網羅したとはいえないが、一応2年間をもって活動を終えた。そこでの各報告と質疑応答を取り纏めたのがこの「特別連載 満鉄調査関係者に聞く」である。連載にあたっては、報告会の順ではなく、テーマごとにまとめて掲載することとした。また残された課題については、今後の研究にまきたい。

満鉄調査資料分科会の運営に際して、宮西義雄（元満鉄東京支社調査室）、三輪武（元満鉄上海事務所調査室業務係主任）の両氏に、テーマの選定、報告者の人選等で全面的なご協力をいただいた。記して謝意を表わすとともに、長い年月を経た記憶をたどりご報告をいただいた報告者と出席された方々に対しても深く感謝したい。

井村哲郎（アジア経済研究所図書資料部参考課）

昭和57年度	昭和58年度
第1回 「満鉄囑託論一河上清及び鈴江言一のこと」伊藤武雄 1982年4月10日	第1回 「華中における農村調査について」新居芳郎 1983年4月22日
第2回 「中国東北における農村調査・農業調査」平野蕃 1982年5月21日	第2回 「満鉄における情報活動」磯村幸男 1983年5月20日
第3回 「満鉄調査部のソ連研究」佐藤武雄 1982年6月18日	第3回 「石川鉄雄調査課長の頃 野中時雄論」伊藤武雄 1983年6月17日
第4回 「『満洲』農村実態調査遺聞」野間清 1982年7月16日	第4回 「満洲産業開発永年計画案策定の経緯と満洲産業開発五箇年計画との関連及びその背景」三輪武 1983年7月22日
第5回 「北支農業に関する満鉄の調査研究活動について」溝口房雄 1982年8月13日	第5回 「満鉄調査部と尾崎秀実、日森虎雄」宮西義雄 1983年8月19日
第6回 「中国慣行調査補遺」野間清、福島正夫 1982年9月17日	第6回 「戦時下の中国農村視察ならびに調査活動を回顧して」尾崎庄太郎 1983年9月16日
第7回 「新京支社調査室における土着資本調査」江夏美千穂 1982年10月15日	第7回 「満鉄中央試験所略史」森川清 1983年10月28日
第8回 「無錫工業実態調査について」山崎進 1982年11月19日	第8回 「『満鉄事件（1942-1945）』について」山口博一 1983年11月18日
第9回 「中国東北地方北部（旧北満）における雇農の性質について」石田精一 1982年12月17日	第9回 「満鉄地質調査所の調査研究活動」松田亀三 1983年12月16日
第10回 「満鉄の貨物運賃政策について」尾崎久市 1983年1月21日	第10回 「満鉄経済調査会」三輪武 1984年1月27日
第11回 「中支不動産慣行調査について」真鍋藤治 1983年2月25日	第11回 「満鉄調査部と『マルクス主義』」石堂清倫 1984年2月17日
第12回 「『中国社会史論戦』について」中島邦蔵 1983年3月28日	第12回 「満鉄調査部の調査研究について」（フリーディスカッション）1984年3月26日